

岩手県から北海道へ

氏名 竹場 恵美

岩手県盛岡市立黒石野中学校 → 北海道厚岸町立厚岸中学校
(期間：平成30年4月1日～平成32年3月31日)

1 岩手県や盛岡市の教育

○ 岩手県の教育

- ・岩手県では、「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた、社会に適応する能力を育てる「人間形成」を目指し教育にあたっている。また、それを実現させるために、学校教育の重点を「きめ細やかな学校教育の実践」、「幼児教育の充実」、「義務教育の充実」とし、復興教育の推進、心のサポートの充実や学力向上など様々な取組を行っている。
- ・学力向上については、「わかる授業」のための授業改善の推進と各種調査等を活用し、組織的に学力向上を目指すPDC Aサイクルの確立をさせる取組を県全体で行っている。また、授業づくりの3つの視点「①学習の見通し②学習課題（学習問題）を解決するための学習活動③学習の振り返り」により「確かな学び、豊かな学び」を実現できるようにしている。数学科では中学校数学教員研修や学校訪問指導を行い授業力の向上を目指している。

○ 盛岡市の教育

- ・盛岡市では県教育委員会の方針を受け、基礎基本の確実な定着を図ることや英語、数学、理科で授業改善のための学校訪問指導を実施している。各種調査等で児童生徒の定着が図られていない単元の授業実践例集をリーフレットにして説明・配付を行い、授業改善を進めている。

2 学校や地域の特色ある教育活動

○ よく聴き合う学び（よく聴き合う関係を基盤として自分の考えを形成する学び）

- ・課題等に取り組む時にはまず自分で考えることを基本とするが、わからないときは他者に質問し、質問された人はそれに答えることで学び合いの関係を構築するようにしている。教えてもらったことをもとに自分の考えを表現することによって、理解を深めるようにしている。

○ ジャンプのある学び（共有課題と発展課題の2つの課題がある学び）

- ・共有課題は、単元の本質的なねらいに迫る課題であり、解法や表現に多様なアプローチができ、既習の学習内容や日常経験を根拠に全ての生徒が取り組むことができる課題である。
- ・発展課題は、共有の課題よりレベルは高いが既習の知識をつなげて解決できるような課題である。この課題に取り組むことで学習の本質により迫ることができ、学び合い

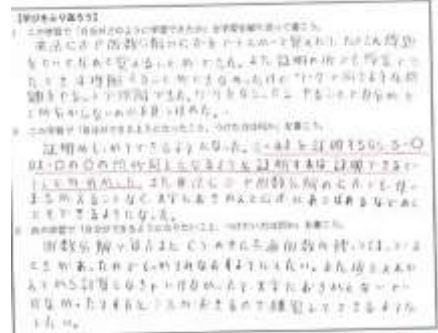
によって得られた多様な考え方を最終的に生徒一人一人が選択・統合し学習内容の理解を深めていく。

○ 学びを支えるSEカード

- ・「自立して学ぶ力」と「メタ認知能力」の2つの力を育てる手立てとしてSEカードを全教科で作成し、単元ごとに学習内容の振り返りをする場面等で活用している。
- ・単元の学習前は「予習の視点や学習の見通しをもつ効果」を、単元の学習後は「自分の実現状況を明確に把握するよりどころとし、自主的に復習に取り組むためのポイントをつかむ効果」を、学期や学年での振り返りに活用する場合は「学習成果を再構成してとらえる効果」を期待している。



学習内容	学習の振り返り	学習の見通し	学習成果の再構成
1. 数の性質の活用	数の性質の活用について、具体的な問題を通して、数の性質の活用方法を学びました。	数の性質の活用について、具体的な問題を通して、数の性質の活用方法を学びました。	数の性質の活用について、具体的な問題を通して、数の性質の活用方法を学びました。
2. 数の性質の活用	数の性質の活用について、具体的な問題を通して、数の性質の活用方法を学びました。	数の性質の活用について、具体的な問題を通して、数の性質の活用方法を学びました。	数の性質の活用について、具体的な問題を通して、数の性質の活用方法を学びました。
3. 数の性質の活用	数の性質の活用について、具体的な問題を通して、数の性質の活用方法を学びました。	数の性質の活用について、具体的な問題を通して、数の性質の活用方法を学びました。	数の性質の活用について、具体的な問題を通して、数の性質の活用方法を学びました。



3 私が取り組んできた実践

○ 聴き合う関係づくりの取組

- ・授業中に生徒が考えたことや疑問に思ったことを自然と話したり問いかけたりするように促すことや、わからないことは自分から「教えて」と言い、「教えて」と言われたら必ず答えることを指導してきた。
- ・わからないことに悩んだときに思考を停止させる生徒が減り、他者に聞きながら自力解決しようとする生徒が増えた。また、わからない人も巻き込んでグループごとや学級全体で課題を解決しようとする生徒が増えた。

○ 家庭学習の習慣化を図る取組

- ・家庭学習を毎日2ページずつ取り組ませた。そのうち1ページは、各教科担当から出されるプリントをノートに「写す・貼る」ことに取り組んだ。授業で学習した内容と家庭学習が関連付けられるような内容にし、基礎学力を身に付けるような工夫をした。
- ・家庭学習の「取り組む内容がわからなかったり迷ったりして取り組めない」という生徒が少なくなり、多くの生徒がスムーズに習慣化できた。

○ 補充学習の取組

- ・家庭学習の習慣化が図れない生徒を対象に、昼休みや放課後の時間や長期休業を使って補充学習を行った。課題の解決方法やわからない問題の調べ方などを指導した。
- ・課題の解決方法などを理解し意欲的に進めようとする生徒が増えた。また、家庭との連携を積極的に図り、理解・協力してくれる家庭が増えた。

参考文献

- ・平成30年度学校教育指導指針 岩手県教育委員会
- ・平成29年度研究集録 盛岡市立黒石野中学校